

なるほどコラム

ファン ドールンの銅像が消えた

猪苗代湖を見渡せる戸の口(猪苗代町)にファン ドールンの銅像が建っています。

これは、昭和 6 年に建てられたものですが、その後、第二次世界大戦が勃発し、戦況の悪化とともに金属類の供出が始まりました。銅像供出されることになりましたが、その前日、ファン ドールンを郡山の恩人と敬慕する人たちの手で、危険を顧みることなく銅像は土の中に隠されたのです。

終戦を迎え、銅像は掘り起こされ、無事現在の場所に建てられました。再建の日には、当時の駐日オランダ大使が列席し、「敵国のオランダ人の銅像を日本人がそれほどまでに大切にしてくれたことに、心から感謝したい」と述べたと言います。

そんな歴史を背負ったファン ドールン銅像は、今もなお、十六橋(猪苗代町)のほとりに立ち、猪苗代湖と遠く安積平野を見守り続けています。